



02

Topics

日本科学未来館で企画展「お化け屋敷で科学する! 2～恐怖の実験～」開

怪奇現象はなぜ起きるの

恐怖がパワーアップ 科学解説も充実!

「お化け屋敷で科学する! 2～恐怖の実験」は、「2」と付くように、2009年に行われた好評企画展の第2弾だ。

昨年は、先端の脳科学を用いて、恐怖感情のメカニズムに迫ることを目的としていたが、今回は何が変わっているのか? 第2弾の見どころについて、企画展の共同制作を行ったフジテレビの長井典子さん(ライツ開発局コンテンツ事業センターCG事業部)は語る。

「今回は、誰もさわっていないのにモノが動くなどの、人間が恐怖として感じるさまざまな怪奇現象が起こります。これらを先端の物理学、化学、生物学で解き明かしていくことがテーマです。お化け屋敷の怖さのレベル

は昨年よりさらに上がっているの、怖いモノ好きの人にはたまらない内容になっています」

会場は、怪奇現象を体験する「お化け屋敷エリア」、怪奇現象を科学的に分析して学習する「科学トピックスエリア」、ほかのお客さんが体験している恐怖を客観的に観察することができる「観察エリア」、心霊現象を疑似体験できる「体験エリア」の4つのエリアで構成されている。

最初の「お化け屋敷エリア」では、入る前に「マル秘調査資料」(P13右上)という小パンフレットを受け取る。来館者は、そこに書かれた「怪しい光」や「不気味な音」など怪奇現象を体験しながら中古住宅の中を進むことになる。

廃屋になった昭和の民家をイメージした「お化け屋敷」に入るなり、次から次へと襲いかかる怪奇現象。恐怖がパワーアップしているというだけあって、音や光、振動などを駆使して、人間の五感に迫ってくる恐怖は、まさにスリル満点。暗闇から聞こえてくるほかのお客さんの悲鳴も、雰囲気をもっと盛り上げてくれる。

怖いモノが苦手な人には、エスケープルートがあって、「お化け屋敷エリア」から「科学トピックスエリア」に出てリタイアすることもできるので、前に進めなくても安心だ。

「幽霊の正体見たり……」 怪奇現象を科学する。

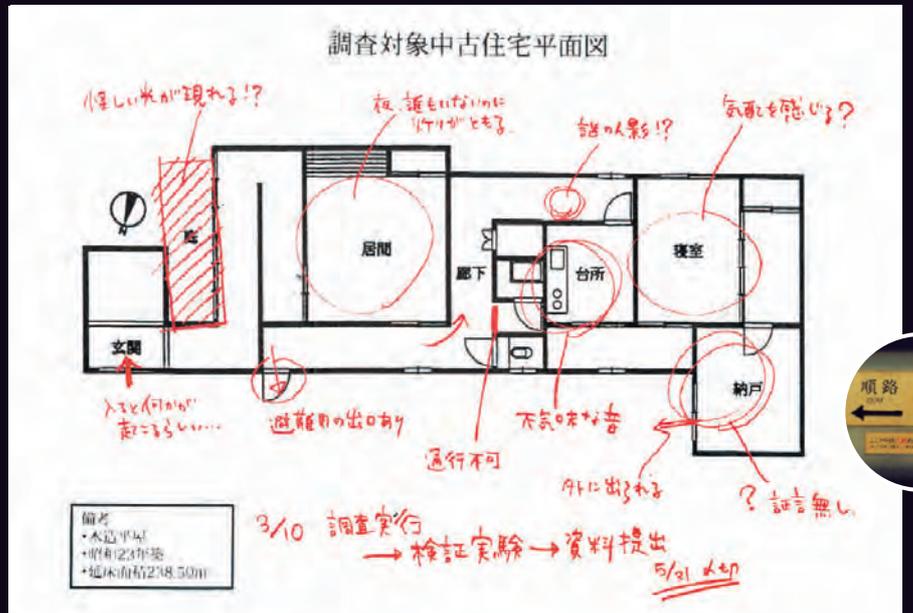
恐怖の一軒家を出ると、「科学トピックス

エリア」が待っている。ここでは、いま体験した怪奇体験が、じつは科学的に説明でき、再現することも可能だということが、パネルやイラストなどを使ってわかりやすく解説されている。

「怪奇現象のように不可解と思われる現象にも、その背後には隠された本質というものがあるんです。このエリアで、そこ



調査対象の“お化け屋敷”



は、観察窓とモニターによってお化け屋敷の中の様子がのぞける仕組みで、しかも、その気になればほかのお客さんを脅かすことができる。思わず意地悪な気持ちになってしまいそうだが、自分がたったいま感じてきた恐怖を、他人が感じている場面を観察することで、恐怖の実体とは何なのか、理解することができるエリアだ。

会場の最後にあたる「体験エリア」には、

服し、豊かさを獲得してきたといえるのです。恐怖を感じ、恐怖を解決することが進歩につながってきたのです」

わたしたちは怪奇現象を、非科学的なものと切り捨てて無視したり、逆に、科学には解明できないものがあるのだと簡単に割り切って、考えることを止めてしまっていないだろうか。この企画展は、不可解な現象を科学的に追及することがいかにたいせつで、しか

催中

か



「恐怖を感じる」とはいったいどういうことなのだろうか。怪奇現象の正体は科学で解明できるのか? そんな疑問に答えてくれるユニークなお化け屋敷が、日本科学未来館に現れた! (開催5月21日(金)まで) 科学を通して恐怖を考えることにより、また新しい未来の扉が開かれるかもしれない!



人魂、ポルターガイスト、霊界通信、呪いの人形……。怪奇現象の正体に科学で迫れ!

に気づいてもらえたらと思っています」と、「科学トピックスエリア」を統括した日本科学未来館・科学コミュニケーターの池辺靖さんは言う。

人魂の正体にはどんな物質が考えられるのか、ポルターガイストは自然現象でも発生するものなのか、靈感によって幽霊が見えたりするのは視覚や脳のはたらきのいたづらなのか、などなど、次々と超常現象の正体が分析・解説されていく。お化けが本気で怖い子どもも、科学の知識がある大人も、「なるほど!」と楽しく学べる科学トピックスが充実だ。とくに、髪が伸びる人形の意外な真実には思わずびっくり!

怪奇現象を科学的に学んだあとで、次に待ち受けているのは「観察エリア」だ。ここ

今回のために特別に開発された写真撮影機がある。これがじつは、心靈写真が撮れる……かも、というブリクラ(写真シール機)。科学の知識を身につけたあなたなら、もう怖くはない?

科学で恐怖はなくなる? それともなくなるらない?

恐怖と科学の関係について、池辺さんは語る。

「怪奇現象のような不可解な出来事は、わたしたちに恐怖を引き起こします。この恐怖という感情は、そこに解決すべき謎や問題が存在しているということを表わす重要なセンサーなのではないかと思います。わたしたちは科学という道具を使って、謎や問題を克

も、おもしろいものなのだということを教えてくれる。

ところで、将来、われわれは科学の力によって、恐怖を完全に取り去ることはできるのだろうか。

「恐怖はなくなるか? ということが重要なのではなく、恐怖を忘れて、そこに謎や問題が存在することに気づかなくなってしまうことこそ危険なのではないでしょうか。そういう意味で、この企画展で恐怖という感情を再認識していただければと思っています。まずは楽しみながら恐怖してもらいたいですね(笑)」

なるほど。まずは深く考えずにお化け屋敷に侵入しよう。すべてのエリアを通過する頃には、恐怖の存在についての認識が深まっているはずだ。■